

JENESYS2025 ASEAN 同窓生と日本人有識者とのオンライン意見交換会の記録 (テーマ：JENESYS 事業成果の検証)

1. プログラム概要

【目的・概要】

本プログラムは、JENESYS 同窓生と有識者・関係機関の代表が意見交換を行い、JENESYS 事業の成果を多角的に検証することを目的とし、実施しました。今回は特に「ホームステイ」に焦点を当て、プログラム中に体験したホームステイが帰国後同窓生にどのような影響を与えているかについて、同窓生の発表や有識者の意見をもとに検証しました。これにより、JENESYS 事業の効果を整理するとともに、今後のさらなる事業改善や活用に向けた示唆を得ることを目指します。

【参加者】

JENESYS ASEAN の同窓生（2008～2010 年度までの参加者）合計 3 名
(内訳) フィリピン 1 名、ベトナム 1 名、ラオス 1 名

有識者 合計 4 名

(所属) 駐日ラオス人民民主共和国大使館、岡山大学、一般社団法人地域振興交流協会、一般財団法人北海道国際交流センター (HIF) (順不同)

【日程】

■ 有識者を交えた意見交換会：2026 年 3 月 19 日（木曜日）10:00～12:00

【テーマ】

◎JENESYS ASEAN 事業の成果を多角的に検証

- ・ ホームステイの参加者への影響
- ・ 受け入れ家庭や地域での変化

同窓生：

- ・ 自己紹介（出身国・地域、現在の職業・所属など）
- ・ JENESYS プログラムでの経験（参加概要及びホームステイの具体的な体験）
- ・ 現在の日本とのつながり（本プログラムやホームステイの経験が、現在の学業・仕事・価値観、または日本との関わりにどのようにつながっているか）
- ・ 将来の展望（今後どのように日本とのつながりを維持・発展させるか、どのように貢献していきたいか）

有識者：

- ・ 自己紹介、JENESYS ASEAN 事業との関わり
- ・ ASEAN の若者に対し、ホームステイを実施することにより、どのようなインパクトがあるか
- ・ 併せて日本側に、ホームステイで ASEAN の若者を受け入れることで、どのような影響があるか
- ・ 今後のホームステイのあり方へのアドバイス

【次第】

1. 開会挨拶（JICE）
2. 出席者紹介
3. JENESYS 同窓生の発表・有識者との意見交換
4. 有識者パネルディスカッション
5. 閉会挨拶（外務省 アジア大洋州局地域協力室 林 直樹 室長）

2. 記録写真

	
<p>【開会】</p> 	<p>【JENESYS 同窓生の発表】</p> 
<p>【JENESYS 同窓生の発表】</p> 	<p>【有識者パネルディスカッション】</p> 
<p>【閉会挨拶】</p> 	<p>【記念撮影】</p> 

3. 同窓生の発表（抜粋）

◆ ベトナム 同窓生

- ・ 来日時にはこたつを囲み、大きな紙を使って意思疎通をしながら、文化や個人的な話を共有したことを覚えています。自分の国の学校生活と比べると大変貴重な経験でした。帰国後も私たちは手紙を通して交流し続けてきました。
- ・ ホストファミリーと親交を深め、彼らが生活している姿を観察しているうちに、愛とは何かということ学びました。また、国家の安定が、家庭や、お互いに尊重し合うことができる人々を育てるとともに、彼らが将来的に力を発揮できる社会を作ることにつながると強く感じました。
- ・ 私は必ずまた日本に戻り、渋谷のような都市部だけではなく、地方や郊外の魅力を発信したいと思っています。観光が都市に集中することによるオーバーツーリズムを避け、より広い視点で日本を知ってもらえると思います。

◆ ラオス 同窓生

- ・ プログラムに参加した当時は 2007 年で、18 歳の時に東京と長野を訪問しました。プログラムで最も心に残っているのは、長野でのホームステイです。私は、現地の 6 人家族に、本当の家族の一員のように迎えていただきました。家族は、お鍋を食べるときの振る舞いや、漫画やテレビ番組のことに楽しそうに紹介してくれました。
- ・ この経験を通して、感謝を伝えることや時間を守る等の価値観を学び、今でも大切にしています。いつか日本に戻り、日本で学び、成長して社会で貢献できるようになりたいと思いました。
- ・ 現在は大阪大学の医学部の博士課程の 1 年生で、家庭高血圧について研究しています。将来的には、日本での研究で得た知識と経験を、ラオスの医療向上に役立てたいです。

◆ フィリピン 同窓生

- ・ JENESYS プログラムでの来日は、教育への姿勢や自分自身の価値観に大きな影響を与えました。私は現職で高校生向けの国際交流プログラムを運営しており、JENESYS での経験は仕事をする上での指針となっています。
- ・ 将来的には、東京のインターナショナルスクールか日本の公立高校で英語を教えることに挑戦したいです。さらに、東京大学で博士号を取得することも私の大きな目標の一つになっています。
- ・ これからも私はフィリピンと日本をつなぐ教育の架け橋として、国際理解と友情を広げていきたいです。このような機会を与えてくれた JENESYS プログラム、日本で出会ったすべての方々から感謝しております。

4. 有識者の提言・意見（抜粋）

◆ 有識者①

- ・ 日本に来る留学生の多くが日本に興味を持つきっかけが日本のアニメ、漫画、ゲームになっている中で、ホームステイというのは、そのリアルな日本を知る極めて有効な方法であるということが分かっています。
- ・ ホームステイというのは、参加する ASEAN の若者だけでなく、受け入れる日本人やその地域の両方に大きな資源をもたらすと思います。日本では多文化共生社会に対応したまちづくりや人材育成等が言われていますが、これにも非常に有効であると考えます。

◆ 有識者②

- ・ ホームステイが本当のリアルな日本を知る一番の体験であると思っています。通常の観光ですと、ホテルに泊まる時や、レストランに行った時も、参加者の皆さんはお客様なので、それはお客様としての扱いを受けているだけであり、本当の日本の姿ではないと思っています。
- ・ JENESYS 参加者とホストファミリーとの関係は一度きりではなく、継続的な交流をしてほしいです。リピーターとなって、また来日してくれることを願っています。

◆ 有識者③

- ・ 印象的だったのは、去年 11 月に実施したブルネイの招へいプログラムにおける、ホームステイ後の歓送会です。会場にいたブルネイの皆さん全員が、涙を見せるほどに別れを惜しんでいました。たった 2 日間のホームステイでも絆が強くなったと感じました。
- ・ そのような光景に両国の未来が浮かび上がります。ブルネイの方々には、その涙の分だけ頑張っ、また日本に来て、更にレベルアップをしてほしいと思いますし、受け入れた日本の方も、初めてのブルネイの受け入れでしたので、非常に興味を持っておられました。いつかは日本の方もブルネイに行ってほしいと思います。

◆ 有識者④

- ・ 本プログラムの最も重要な効果は、参加者が母国に帰国した後に現れると考えています。帰国後、参加者は日本での経験と自国の状況を比較し始め、そこで得た学びや気づきを自らの社会にどう活かせるかを考えるようになります。さらに、進学や職業生活においても、JENESYS プログラムを通じて培われた視点や経験が、新しい考え方や行動を可能にし、自身の目標をどのように達成していくかを考える助けとなります。
- ・ また、ホームステイ後に参加者が在京大使館を訪問することができれば、より意義があると考えています。参加者はホームステイで得た経験や学びを直接報告し、振り返ることができ、経験をより深く自分の中に定着させることにつながると思います。

5. 参加者の感想（抜粋）

◆ 同窓生

所属先の学校において活かせる、国際的な視点への理解と関心が高まりました。文化的多様性に対する受容性が広がるとともに、海外のパートナーと関わろうとする意欲が一層強まりました。また、語学学習や異文化コミュニケーションへの関心も高まりました。

◆ 有識者

ホームステイがいかに JENESYS を魅力あるプログラムにしているか、強い確信を得ました。特に、地方に海外の若者を惹きつけるには、ホームステイは有効な手法であること、あわせて若者を惹きつけるいくつかのキーワードについて理解を深めることができました。

◆ 有識者

みなさんそれぞれに活躍されているようで、この事業の価値の高さを感じることができました。JENESYS のプログラムに参加した学生たちのその後のお話が聞けたこと、参加者の「その後」に寄り添っていることを実感し、非常に嬉しく思います。今後も気を緩めることなく、農泊体験をはじめ、諸プログラムにおいてもより綿密に計画していきたいと思ひます。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）